

(左記略ス)

第八條 醫藥品ノ製造試験、薬用植物栽培ノ試験及指導、齒科材料ノ検定及試験並ニ花柳病治療薬ノ検査ニ關スル事務ニ従事セシムル爲衛生試験所ニ左ノ職員ヲ置ク

(左記略ス)

保険院官制中改正並に同院分課規定

中改正の件公布

保険院官制中改正の件並に同院分課規定中改正の件についてはそれぞれ昭和十六年十一月五日及び十八日付の官報を以て公布せられたが、之を掲ぐれば以下の如くである。

保険院官制中改正ノ件

(昭和十六年十一月四日勅令第九百四十七號)

保険院官制中左ノ通改正ス

第一條第一號中「労働者災害扶助責任保険」ノ下ニ「労働者年金保険」ヲ加フ

第二條第一項中「書記官專任十四人」ヲ「書記官專任十九人」ニ、「理事官專任六人」ヲ「理事官專任八人」ニ、「簡易保険事務官專任二十八人」ヲ「簡易保険事務官專任三十七人」ニ、「技師專任十七人」ヲ「技師專任二十五人」ニ、「屬專任三百六十五人」ヲ「屬專任四百三十七人」ニ、「簡易保険書記專任千七百七十一人」ヲ「簡易保険書記專任二千百十四人」ニ、「技手專任五十九人」ヲ「技手專任六十七人」ニ、「簡易保険書記補專任二千五百三十九人」ヲ「簡易保険書記補專任二千八百八十三人」ニ、「同條第二項中「保健技師專任二百二十人」ヲ「保健技師專任二百三十八人」ニ改ム

第三條第二項中「第一條第三號ニ掲グル事務」ノ下ニ「労働者年金保険ニ關スル事務」ヲ加ヘ同條第三項中「第一條第一號ニ掲グル事務」ノ下ニ「労働者年金保険ニ關スルモノヲ除ク」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(参照)

昭和十三年一月十一日勅令第九號保險院官制抄録

第一條 保險院ハ厚生大臣ノ管理ニ屬シ左ニ掲グル事務ヲ掌ル

- 一 健康保險、職員健康保險、船員保險、國民健康保險、労働者災害扶助責任保險其ノ他ノ社會保險ニ關スル事項
- 二 簡易生命保險及郵便年金ニ關スル事項
- 三 前二號ニ掲グル保險ノ制度ノ企畫並ニ被保險者保健施設ノ企畫及統轄ニ關スル事項

第三條第二項及第三項

總務局ニ於テハ人事、文書及會計ニ關スル事務、保險數理ニ關スル事務、第一條第三號ニ掲グル事務並ニ他ノ主管ニ屬セザル事務ヲ掌ル
社會保險局ニ於テハ第一條第一號ニ掲グル事務ヲ掌ル

保險院分課規程中改正

(昭和十六年十一月十七日より施行)

第一條中「四課」ヲ「五課」ニ改メ「施設課」ノ次ニ「年金保險課」ヲ加フ

第五條ノ二 總務局年金保險課ハ労働者年金保險ニ關スル事務ヲ掌理ス

第七條 社會保險局庶務課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一 健康保險組合ニ關スル事務

二 職員健康保險組合ニ關スル事項

三 社會保險審査會ニ關スル事項

四 他課ノ主管ニ屬セザル事項

第十八條中「十五課」ヲ「十七課」ニ改メ「福祉運用課」ヲ削リ「會計課」ノ次ニ「運用課」及「福祉課」ヲ、「東京第三課」ノ次ニ「東京第四課」ヲ加フ

第二十一條 東京簡易保險支局運用課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一 積立金ノ貸付ニ關スル事項
- 二 積立金貸付ニ係ル債權確保ニ關スル事項
- 第二十一條ノ二 東京簡易保險支局福祉課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一 簡易保險被保險者保健施設ノ運営ニ關スル事項
二 簡易保險健康相談所ノ職員及傭人ニ關スル事項
三 簡易保險健康相談所ニ屬スル土地、建物、工作物及電話ニ關スル事項

第二十四條第一項中「同東京第三課」ノ下ニ「同東京第四課」ヲ加フ

第二十七條中「四課」ヲ「六課」ニ改メ「福祉運用課」ヲ削リ「庶務課」ノ次ニ「運用課」及「福祉課」ヲ、「第二課」ノ次ニ「第三課」ヲ加フ

第二十九條 福岡及仙臺簡易保險支局運用課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一 積立金ノ貸付ニ關スル事項
- 二 積立金貸付ニ係ル債權確保ニ關スル事項
- 第二十九條ノ二 福岡及仙臺簡易保險支局福祉課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一 簡易保險被保險者保健施設ノ運営ニ關スル事項

二 簡易保險健康相談所ノ職員及傭人ニ關スル事項
三 簡易保險健康相談所ニ屬スル土地、建物、工作物及電話ニ關スル事項

第三十條第一項中「第一課及同第二課」ヲ「第一課、同第二課及同第三課」ニ改ム

別表ヲ左ノ如ク改ム

別表 課 名 受 持 區 域

東京第一課	東京府	（養老保險契約ニ關スル事務ニ付テハ第二十四條第一號乃至第五號ニ據テ事務ヲ除ク）
東京第二課	東京府	（東京第一課ノ主管ニ）
東京第三課	東京府	（東京第一課ノ主管ニ）
東京第四課	東京府	（東京第一課ノ主管ニ）
名古屋第一課	名古屋府	（名古屋第一課ノ主管ニ）
名古屋第二課	名古屋府	（名古屋第一課ノ主管ニ）
大阪第一課	大阪府	京都府
大阪第二課	兵庫縣、奈良縣、滋賀縣、和歌山縣、德島縣、高知縣	
廣島課	廣島縣、鳥取縣、島根縣、岡山縣、山口縣、香川縣、愛媛縣	
第一課	熊本縣、福岡縣	
第二課	長崎縣、大分縣、宮崎縣、鹿兒島縣	
第三課	佐賀縣、沖繩縣、臺灣、關東州、滿洲國、中華民國	
第一課	宮城縣、青森縣、秋田縣、樺太	
第二課	福島縣、岩手縣、山形縣	
第三課	北海道	

厚生科學研究所及び熱帶醫學研究所

官制中改正の件公布

人口問題研究所と並んで人口問題研究上關係の尠くない厚生科學研究所及び熱帶醫學研究所官制中一部改正の件はそれぞれ昭和十六年十一月一日及び十一月十

五日付官報を以て左記の如く公布を見た。

厚生科學研究所官制中改正ノ件

（昭和十六年十月三十日 勅令第九百三十八號）

厚生科學研究所官制中左ノ通改正ス

第二條第一項中「教授專任七人」ヲ「教授專任九人」ニ、

「助教專任四人」ヲ「助教專任五人」ニ、「助手」專任四十六人」ヲ「助手」專任四十九人」ニ、「書記專任九人」ヲ「書記專任十人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

熱帶醫學研究所官制中改正ノ件

（昭和十六年十一月十五日 勅令第九百六十八號）

熱帶醫學研究所官制中左ノ通改正ス

第三條中「技手專任二十五人」ヲ「技手專任三十三人」ニ改ム

第九條第二項中「八人」ヲ「十一人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

昭和十四年四月二十日勅令第二百七十八號熱帶醫學研究所官制抄録

第九條 臺北帝國大學教授ニシテ所長又ハ所員ニ補セラレタル者ニハ講座ヲ擔任セシメザルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ講座ヲ擔任セザル教授及所員ニ補セラレ専ラ所務ニ從事スル助教ハ通ジテ八人

トシ臺北帝國大學ノ定員外トス

國民勤勞報國協力令の公布

國家總動員法に基ク國民勤勞報國に關する勅令案要綱については本誌前々號本欄に既報の如くであるが、

同令は昭和十六年十一月二十二日付官報を以て公布を見、昭和十六年十二月一日より施行せらるることとなつた。之を掲ぐれば次の如くである。

國民勤勞報國協力令（昭和十六年十一月二十二日 勅令第九百九十五號）

第一條 國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號）ニ於テ依ル場合ヲ含ム）第五條ノ規定ニ基ク帝國國民ノ勤勞報國ヲ目的トスル協力ニシテ隊組織ニ依ルモノ（以下國民勤勞報國隊ニ依ル協力ト稱ス）ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 國民勤勞報國隊ニ依ル協力ハ國、地方公共團體又ハ厚生大臣若ハ地方長官ノ指定スル者ノ行フ命令ヲ以テ定ムル總動員業務ニ付之ヲ爲サシムルモノトス

第三條 國民勤勞報國隊ニ依ル協力ヲ爲サシムルべき者ハ帝國國民ニシテ年齢十四年以上四十年未満ノ男子及年齢十四年以上二十五年未満ノ女子（妻及届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル女子ヲ除ク）トス

前項該當者以外ノ者ハ志願ニ依リ國民勤勞報國隊ニ依ル協力ヲ爲サシムルコトヲ得

第六條ノ規定ニ依リ學校長ニ對シ必要ナル措置ヲ命ズル場合ノ學校在學者ノ國民勤勞報國隊ニ依ル協力ニ關シテハ前二項ノ規定ニ拘ラズ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得